

1 社会科における教育課程実施上の課題と指導上の留意事項

(1) 各学校において求められること

- ① 新学習指導要領に基づき3年間を見通した指導計画の立案
- ② 各分野において改訂の要点となる内容についての教材開発
  - ・ 動態地誌的な学習による「日本の諸地域」の教材開発（地理）
  - ・ 学習内容の焦点化を踏まえ導入・まとめを重視した教材開発（歴史）
  - ・ 「現代社会をとらえる見方や考え方」を生かした教材開発（公民）
  - ・ 持続可能な社会を形成するという観点から課題を探究させるために必要な指導計画の立案と教材開発
- ③ 「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料」の活用（国立教育政策研究所）[http://www.nier.go.jp/kaihatsu/hyouka/chuu/02\\_chu\\_shaki.pdf](http://www.nier.go.jp/kaihatsu/hyouka/chuu/02_chu_shaki.pdf)
- ④ 「言語活動の充実に関する指導事例集」の活用（文部科学省）  
[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/new-cs/gengo/1306108.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/gengo/1306108.htm)

2 新学習指導要領における社会科の改訂の要点や留意事項の確認

- 全面実施初年度、全体の概要を再度確認する。

(1) 地理的分野

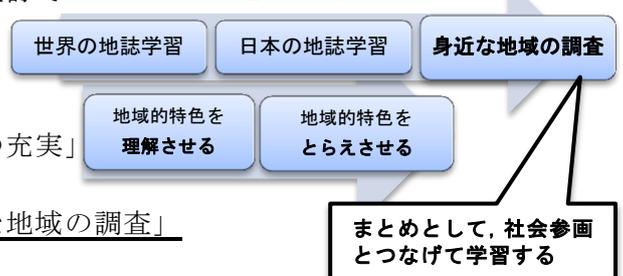
- ① 「防災」「エネルギー」等今日的な課題について
  - ・ 社会の動静とリンクする必要がある。東日本大震災からは離れられないが、被災者への十分な配慮が必要である。
  - ・ 先々の社会への危機感が子どもにもある。机上ではなく、社会との接点がある授業が必要である。
  - ・ 小学校第5学年の目標では「自然災害の防止」の項目が付加され、高等学校では中項目「自然災害と防災」が1つ追加された。
  - ・ 東日本大震災を踏まえての学習指導要領改訂ではないことを確認しておく。
- ② 分野の改訂の要点について
  - ・ 「ウ 世界に関する地理的認識の重視」
  - ・ 「エ 動態地誌的な学習による国土認識の充実」
  - ・ 「オ 地理的技能の育成の一層の重視」
  - ・ 「カ 社会参画の視点を取り入れた身近な地域の調査」

新たな「社会、地理歴史、公民」の内容

- ・ 社会的事象を多面的・多角的に考察し、公正に判断するとともに、  
 ⇒「教科の改訂の要点」、言語活動の充実  
 持続可能な社会の実現を目指すなど公共的な事柄に主体的に参画する資質や能力の育成を重視する。  
 ⇒社会参画、伝統や文化、宗教に関する学習の充実
- ・ 小学校では、自然災害、社会の情報化の様子、世界を捉える枠組みの基礎に関する指導を  
 中学校では、世界地理、近現代史、伝統や文化、政治や法、経済の基礎等に関する指導を充実する。  
 高等学校では、地理歴史科で科目間の関連や地図の活用を重視し、  
 公民科で法や金融に関する指導や人間としての在り方生き方に関する指導を充実する。  
 ⇒基礎的・基本的な知識・理解、概念や技能の習得

H20.1.17中央教育審議会答申 概要版 より

図1 改訂の概要



- ③ 世界の地誌学習について
  - ・ 大観する場面で時間をかけすぎないように留意する。知識を注入させることに陥らない。日本の諸地域や身近な地域の調査の時間を確保する。
  - ・ 日本の地誌学習を行う上で効果的な観点で実施する。（日本の地誌学習のトレーニング的な視点を持つ）
  - ・ 小中の流れをつかみ、小学校での学習事項を踏まえて指導を行う。
- ④ 日本の地誌学習について
  - ・ 七つのポイント（図2参照）を確認して、授業を構成する。
  - ・ 「日本の諸地域」の評価では、中項目を通して四観点を見て取ることができればよい。
  - ・ 発達段階や習熟の度合いを意識して評価計画を作成する。
  - ・ 地図を積極的に活用する。
  - ・ GISの活用。「初等中等教育に地理情報を生かそう：GISの活用で効果的な授業を」（国土交通省国土政策局）<http://www.mlit.go.jp/kokudoseisaku/gis/gis/kyoiku/index.html>

- ⑤ 身近な地域の調査について
  - ・ 地理的分野のまとめとして、十分に時間を確保して実施する。
  - ・ 地域への課題意識が社会参画につながる。
  - ・ 公民的分野の中項目「よりよい社会を目指して」とは区別して取り扱う。
- ⑥ 試験問題について
  - ・ 新学習指導要領の学力が適切に把握できるようなテストを作成していく必要がある。

日本地誌学習における7つの「べからず」集	
○ ねらい	① ねらいが地域的特色をとらえることにあるのを忘れるべからず
○ 地域区分の仕方	② 地域を過度に細分化するべからず ③ 指導の順序や配当時間を固定的に考えるべからず
○ 考察の仕方	④ 網羅的、並列的な知識注入に陥り、静態地誌的な扱いとするべからず ⑤ すべての地域とすべての考察の仕方を結び付けようとするべからず ⑥ 事象間の関連付けや課題追究を生徒主体とせざるべからず
○ その他	⑦ 「べからず」とされたことに拘泥し教材研究の可能性を開ざすべからず

図2 日本地誌学習における7つのポイント

(2) 歴史的分野

- ① 分野の改訂の要点について
    - ・ ア「我が国の歴史の大きな流れ」の理解という目標
    - ・ イ 学習内容の構造化と焦点化
    - ・ まとめができるように平素から授業を充実させていく。  
→ 楽しみながら、まとめを主体的にできる授業を行う。
    - ・ 個別事象の羅列でなく、焦点化と深い理解が図られる学習
    - ・ 時代の特色がつかめる学習 毎時間の実践で
  - ② 第3学年での歴史的分野と公民的分野の履修について
    - ・ 歴史的分野の学習が終了後、公民的分野の学習を開始 (解説 P.125, 4～6 行目)。
  - ③ 歴史的分野における「理解」について (解説 P.11～14)
    - ・ 中項目の文末を「理解させる」でそろえている。
    - ・ 「理解させる」と「覚えさせる」との違いを理解する。
- 理解する** →

  - 「覚える」にとどまらない「分かる」という意味合いを持つ。
  - 疑問に正対し自分自身で試行錯誤して考えることで納得・理解を生む、「分かる」状態をもたらすことを含む。
- 時代の特色  
↓  
**次の時代の導入の気付き**
- ・ 歴史の学習活動・学習時間が「覚える」ことばかりで終わらないように留意する。
  - ④ 言語活動の充実について
    - ・ 「情報知」より「了解知」, 「他人の言葉」だけでなく「自分の言葉」を主体とした内容習得や情報交流を目指して実践する。

(3) 公民的分野

- ① 分野の改訂の要点について
    - ・ 「イ 現代社会をとらえる見方や考え方の基礎を養う学習」は大項目 (2) 以降で活用する
    - ・ 社会的事象間の関連や概念
    - ・ 政治・経済・国際社会を見る視点
  - ② 消費者教育や環境教育等について
    - ・ 教科横断的なカリキュラム構築も必要である。
    - ・ 社会的要請として取り上げられた教育である。
  - ③ 学習評価について
    - ・ 考えた過程や結果を生徒に記述させる。  
→ 複数の教師で分析し、指導の改善につなげる。組織的な取組が有効である。
    - ・ 指導と評価の一体化を意識する (指導したことを評価する視点を持つ)。
- 不十分 → 現代社会をとらえる概念的な枠組みの基礎  
↓  
**「対立」と「合意」, 「効率」と「公正」**  
↓  
**公民的分野の授業改善のための枠組み**

3 参考となる資料等

- 中等教育資料
  - 平成 20 年 8 月号～「各教科等の改善／充実の視点」
  - 平成 23 年 4 月号 P.18～19 平成 23 年 5 月号 P.88～91 平成 24 年 6 月号 P.22～27